

研究成果の紹介

1 兵庫県花卉協会との参画と協働による「ひょうごオリジナルギク」の育種の実績

ねらいと成果

キクは本県の切り花栽培面積の43%を占める主要花きの一つである。近年、東南アジア諸国からの輸入量が増加し、国内では産地間競争がますます激化している。そこで、産地の独自性を発揮するため、現在、兵庫県花卉協会（キク部会）との共同研究で、キク部会員、研究員、専門技術員、関係地域普及指導員、農産園芸課、花卉協会事務局で構成する「育種検討委員会」を設置し、キクの育種に取り組んでいる。これまでの成果として、育種目標である「葬儀や仏花以外でも利用できる洋花的な花形・花色のキク」7系統を選抜した。

内 容

(1) 交配親収集と実生育成

2005年にキク部会員から提供された58品種を母親として、観賞用一文字ギク、美濃ギク20品種を父親として交配し、採種、実生育成した。

(2) 選抜

2006年に育成した実生を神戸市、三木市、淡路市のキク部会員ほ場で栽培し、花の形質を重点に56系統を一次選抜した。その系統を2007年に園芸部で栽培し、開花時期、草丈、花首伸長性、葉色、

葉形、花色、花形、花径等を調査し、有望な7系統を二次選抜した(図)。

本系統はいずれも一重咲き(一部半八重)で花径が11~18 cmと大輪で、従来の八重・盛咲きタイプとは大きく異なった特性を持つ。

今後の課題

二次選抜した系統について2008年以降、品種登録に向け、市場評価に加えてPRを実施する。同時に大輪の一重咲きであることから、切り前状態、出荷方法等を検討する。

一方、一次選抜で得られた系統の内18系統に対する戻し交配と秋咲きが多いため、夏咲きギクに対する交配を実施した。今後、これらの実生を育成、選抜し、新たな用途に利用される「ひょうごオリジナルギク」を作出する予定である。

また、育種検討委員会では、育種目標の設定、交配親の手配、選抜、特性調査、市場評価・PR、品種登録、種苗管理、普及等、本研究に関わるすべての事項を運営、管理するようにしている。これにより、迅速な品種の育成、普及が期待できる。

山中 正仁(農業技セ・園芸部)

(問い合わせ先 電話：0790-47-2424)



図 二次選抜した7系統